

○国語科の課題分析と具体的な授業改善計画（令和4年度授業改善プラン 入新井第一小学校）

*令和3年度の改善プランの検証

学習効果測定において、4年生では、漢字を読むことの正答率は93%を超え、書くことも目標値を超えている。比較的高いレベルで定着はしているので、今後はノート指導など、実際に文章を書く中で漢字を使用する機会をさらに増やしていくことがよいと考えられる。5年生では、漢字を読むことの正答率は目標値を約10ポイント上回った。読みと比べると書き取りの正答率は下がるので、正しく書けているかどうかをその都度見直すなど、定着を図るためのさらなる手立てが必要である。6年生では、漢字の読みよりも書き取りに課題が見られる。児童間の差が大きい様子も見られるので、タブレットを活用し、個に寄り添った支援を進めていく必要がある。学校全体では、様々な文章に触れることで国語における知識・技能が向上している様子が見られる。読書の時間を増やしたり、書いた文章を互いに読み合ったりするなどの方策を取り入れていきたい。

また、文章を書くことに苦手意識をもつ児童が多く見られることも分かった。短い文章を書くことで慣れさせたり、文章の構成の仕方を例示したりするなど、抵抗感を減らしていくための方策が必要である。

学力の高い児童をより伸ばしていくとともに、苦手だと感じている児童も楽しさを感じながら国語に取り組み、力を伸ばしていけるよう指導を続けていかなければならない。

*令和4年度の改善プラン

観点	児童の実態（今回の調査における分析を含む）	明らかになった課題	具体的な授業改善案	
知識・技能	一年	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名など文字の学習に取り組み、習った平仮名を使って文を書くことができるようになってきた。 濁音、半濁音、拗音を正しく書けない児童が多い。 『わ、は』『お・を』『え・へ』を文脈から読み取る力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 濁音、半濁音、拗音を正しく書けるようにすること。 『わ、は』『お・を』『え・へ』を区別して正しく表現できるようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> フラッシュカードなどを使い、濁音、半濁音、拗音学習を読む練習をしていく。 読書の時間を多く取ることで、様々な文章に触れさせ、文脈から正しい文字を考えられるよう指導していく。
	二年	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の言葉集めでは、よく集めることができる児童が多い。しかし、定着するまでには至っていない児童もいる。 言葉では状況を伝えられても、文にすると様子が分らないことがある。 作文用紙の使い方（文頭は一ます下げる、かぎかっこなど）の定着度合いに個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習漢字を普段の学習の中で用いること。 順序だてて文を書くこと。 基本的な作文用紙の使い方に覚えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ドリルを用いて繰り返し書いたり、タブレットを利用したりして練習し、漢字の定着を図る。 日記や中程度の長さの作文において、順序立てた書き方をその都度指導する。 「」を使った会話文の書き方や、適切な句読点の打ち方、カタカナの使い方なども理解させていく。
	三年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習では、書き順を確認したり丁寧に書いたりしている様子が見られる。 「～は」が「～わ」になっていたたり句読点を正しく使うことができていないことがある。 文を書くことが得意な児童とそうでない児童の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字学習への関心の高さを生かし、既習の漢字を普段の学習の中で用いること。 ノートの使い方や作文用紙の使い方など、文章の書き方を理解すること。また、句読点を適切に打つこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な漢字の小テストを行い、漢字を覚える機会を増やす。 一行日記などを活用して短い文章から書き始め、文を書くことに対する苦手意識を少なくしていく。
	四年	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能において目標値を下回ったのは、漢字の読みの1題にのみであった。正答率を比べると、漢字の書き取りより、読み取りのほうがポイントが高かった。 情報と情報との関係を理解する問題では、目標値より大きく上回ってはいるが、正答率は低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の漢字について、送り仮名の付け方などを意識して文や文章の中で使用すること。 図表をもとにしながらかえと理由（事例）、全体と中心などの関係を読み取ること。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読を聞きながら実態を把握し、読めていない漢字の指導をその場で行う。 ノートを使用した学習の中で、既習の漢字を使用するよう心がけさせ、確認する。小テストなどを活用して、繰り返し練習する機会を設ける。 他教科と連携しながら、図表の読み取り方を確認する。
	五年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字では、読み取りに比べ書き取りの正答率が低かった。読み取りでは、目標値より約10ポイント上回った。 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解しているが、連用修飾語について理解が目標値と同程度であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 文の中での語句の係り方や、文と文の接続、文章の構成についての理解を深めること。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文や分かったことのまとめなど、学習した漢字を正しく使っているか、常に自分で見直しをするように習慣づけさせる。 動詞、形容詞、形容動詞を修飾する連用修飾語を意識させながら、文章を構成できるように習慣づけて指導する。
	六年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字では、読み取りに比べ書き取りの正答率が低かった。書き取りは、目標値を下回った。特に同じ音の漢字の使い分けが難しい。 主語、述語、修飾語の区別ができていない児童も多くおり、文の構成を構造的に理解できていない。 敬語の語彙が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度までに習った漢字は文や文章の中で使えるようにようにすること。 文の中での語句の係り方や、文と文の接続、文章の構成についての理解を深めること。 日常よく使われる敬語に使い慣れること。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の書き取りについては、家庭学習も充実させるためにタブレットを活用して個別の課題を出す。 2学期に「文の組み立て」「敬語の使い方」について復習授業をする。 敬語についてが、日常生活でも使用しながら身に着けさせる。

思考・判断・表現力等	一年	<ul style="list-style-type: none"> 音読では、ゆっくりと大きな声で読める児童が多くなってきた。 物語文での登場人物の行動を想像することに難しさを感じている児童が見受けられる。 説明する文章では、文章を読まず、写真や挿絵だけから内容を考えてしまう児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の様子、登場人物の行動・会話などを手掛かりにしながら内容の大体を捉えること。 写真や挿絵だけではなく、題名や見出しなども手掛かりにしながら文章全体の内容把握と各段落に書かれている内容の把握を進めていけるようになること。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読をする時には、言葉のまとまりや場面の様子を考えながら読み方を工夫できるように指導をする。 文章を読んで内容の大体を捉えると同時に、自らの考えも表現できるように、ワークシートを工夫し、文字で書き表せるようにする。
	二年	<ul style="list-style-type: none"> 音読では登場人物の台詞など、読み方を工夫することができる児童が多い。 説明文の読み取りでは、文章中の大切なところを概ね見つけることができる。 物語文の読み取りで、場面の様子や登場人物の行動を想像しながら読んだり、発表したりすることに苦手意識をもつ児童が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語文の読み取りで、場面の様子や登場人物の行動を想像しながら内容の大体を捉えたり、発表したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語文の学習では、登場人物の行動等が想像できるよう、吹き出し等に理由を書いたり、文章に線を引いたりして叙述に沿って読むことができるように指導の工夫をする。
	三年	<ul style="list-style-type: none"> 物語文での学習や、本の読み聞かせなどでは、集中して聞いたり読んだりすることができる。 想像しながら読むことができる。 自分の考えをもつことはできるが、文章に書くことが難しい。 友達に自分の考えを伝えることは楽しんで取り組めるが、わかりやすく伝えることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 理由を表すときに「なぜなら～」、事例を表すときに「例えば～」などの表現ができるようになる。 伝えるときには、冒頭で話の中心を述べ、そのことに合わせた理由や事例を挙げたり、内容と結論のずれがないようにしたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを書く時にどのように書いたらいいか、書き方の例を示す。 友達への伝え方を手本として見せたり、伝えるポイントを明確化するなど、苦手意識を少なくしていく工夫を行う。 友達の考えと自分の考えの似ている点や違う点などに注目させ、自分の考えをより確立できるようにしていく。
	四年	<ul style="list-style-type: none"> 文章の読み取り問題に関しては、目標値を大きく上回っている。 文章の構成を考える問題や、指定された長さで文章を書く問題、自分の考えを明確にして文章を書く問題において、目標値を下回っている。 互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる問題については、目標値を大きく上回っているが、正答率自体は低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 短い文章で書く際には、要点をまとめて書くことや意見に理由を添えて書くこと。 中心に述べたいことを一つに絞り、それをもとに内容のまとまりで段落を書くこと。 意見を比較し、それぞれの考えがどのようなことに基づいているか着目すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 3分割（もしくは2分割）の文章の書き方の定着を図る。3文日記など、短い文を書く機会を増やし、文章構成の理解を深める。 読み取りは得意な児童が多いので、説明的文章の学習で学んだ文章構成を活かし、筆者の考えに対する簡単な意見文を書くことで、自分の考えや理由・具体例を区別して書けるように指導する。
	五年	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの内容を聞き取り、意見の共通点に着目して考えをまとめる問題では、正答率が目標値を大きく下回った。 文を読み、叙述にそって考えていくことができるようになってきている。しかし、叙述から想像して考えを深めることを苦手とする児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の発言を聞き取ることを苦手とする児童が多い。話し手の意見や理由を区別して、それぞれの共通点と相違点を考えながら、正しく聞き取ることに課題がある。 説明文では、文章が全体を通してどのように構成されているかを捉え、要旨を把握すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し手の話を聞き、意見と理由を聞き取りながら短い言葉でメモし、共通点に着目して意見を分類・整理する言語活動を日頃から取り入れる。 説明文では、話題を明確にし、話の流れをつかませる。
	六年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の書き取り学習に意欲的に取り組む様子が見られ、学期ごとの確認テスト等では9割定着している児童が半数いる。 物語文の読み取りは、目標値を上回っている。 説明文の内容を読み取り、ほかの例に当てはめて考える問題の正答率が目標値を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容を読んで理解したことと既存の知識などと結び付け、自分の考えを形成する語彙を増やすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語文の学習の際に、描写に着目して読み取る学習を行う。 内容を読み取り、言葉に表すことに慣れさせる。
	一年	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名の学習では一文字一文字書き順や止め、はね、はらいに気を付け、粘り強く学習していた。 音読をすることに楽しさを感じながら読む様子が高まっているが、声量や速さ等、まわりの人に聞き取りやすい読み方を意識して音読し続けることは難しい。 書くことは個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたいことを書いて伝えられる・音量や速さなどに気を付けて音読練習に励み、相手に伝わることのよさに気付くこと。 伝えたいことを書いて伝えられるよさに気付かせ、書くことに自信がもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読・スピーチ・発表をする機会等、児童が自分の意見や考えを自ら発表できる場面を多く設定する。 書くことに対して苦手意識がある児童に対して、個別に声掛けや指導を行い、自信をもてるようにする。
	二年	<ul style="list-style-type: none"> 物語文の学習で、登場人物の心情を理解しようと努める児童が増えた。 文章を読んで自らが考えた感想や意見、日々の日記等で原稿用紙に文章を書くことに苦手意識をもつ児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや感じたことを書いて表せる言葉のよさを実感させる。そのために作文用紙の使い方に慣れ、ノートやプリントの吹き出し等に自分の思いを書くときのようにかけるようになることを課題とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員が答えられる発問を意図的に組み込み、皆が参加できるようにする。 タブレットを活用しメモを書き溜めていくことで、短い文章を組み合わせながら原稿用紙に書き写せるようにする。 個別の指導や支援を行い、一斉指導を行いながらも個々の児童の実態に合った指導をしていく。

主体的に学習に取り組む態度	三年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習では意欲的に行っており、自分の字に自信をもっている児童が多い。 物語文を読むことが好きな児童が多く、想像力を働かせながら読むことができる。そのため、自分の考えを積極的に伝え合おうとする児童が多く見られた。 文章を書くことを苦手としている児童が多く、書き間違いが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 頭の中で想像したことや事実を説明するために言葉が役に立つことに気づき、正しく書こうという意欲をもつこと。 順序だてて説明をしたり、作文に書いたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 出来事や自分の気持ちを文章に表す機会や、日々の会話で問いかけを多くすることで気持ちを表出する場面を増やす。
	四年	<ul style="list-style-type: none"> 他の問題と比べると、文章を書く問題について、無回答の児童が多い。 文章を書くことを苦手としている、書き表し方が分からない、自分の意見の表現の仕方に自信がないという児童が一定数いると考えられる。また、字を書くこと自体が苦手と感じている児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 短い文を書くことから始めて、言葉によって自分の考えを形成したり、感じたことを言葉にしたりすることで心を豊かにさせることに気づき、書くことへの抵抗感を減らしたり、自信をつけたりすることを課題とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 一行詩や俳句など、少ない文字数で気持ちを表現する活動などを取り入れ、文字を書くことに対する抵抗感を和らげるようにする。 長い文章を書く際にも、文章構成を意識させ、書く内容をはっきりとさせたいうで分割して書くことに取り組めるよう学習シートを工夫する。 書いたことをほめる。
	五年	<ul style="list-style-type: none"> 図書の時間だけではなく、意欲的に読書に親しもうとする姿が見られる。 物語文を読むことが好きな児童は多い。 書く、という作業を苦手とする児童が多く、自身で考える作文などの課題は取り掛かるのに時間がかかる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 書くことに自信をもたせるために、言葉によって考えを形成したり、新しい考えを生み出したりすることができる言葉のよさに気付かせること。 	<ul style="list-style-type: none"> 読む本が偏らないよう、本を紹介することなどを継続する。 「書く」ための考えるポイントが分かるような見本を示し、書くことに慣れさせる。言葉だけの指示ではなく、板書して視覚的にも指示が理解できるようにする。
	六年	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に読書に親しむが様子が見られるが、読書の幅が狭い児童が多い。 文章を「書く」ことに慣れていない児童が多い。 自分の考えに自信をもてていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書の習慣をつけ、楽しさを感じて文章を読む力や語彙力を高め、読書のジャンルを広げていくこと。 書くことに自信をもたせるために、言葉によって考えを形成したり、新しい考えを生み出したりすることができる言葉のよさに気付かせること。 言葉を通じて他者と関わり、理解を深める機会を設定し、自分の考えによさがることに気付くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ブックトークやビブリオバトルなど、本にふれる活動を実施する。 「書く」の単元では、型を示して苦手意識のある児童も取り組みやすいようにする。 タブレットなどを活用し、文章を考えて書く機会を増やす。 考えを伝え合い、認め合う時間をつくり、自信をもたせる。

